

# 愛媛県の地震

2021年（令和3年）9月

## 目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図	1
2. 地震概況（9月）	1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（9月）	2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震 の震度分布図（9月）	2
5. 地震一口メモ プレートテクトニクスについて	3

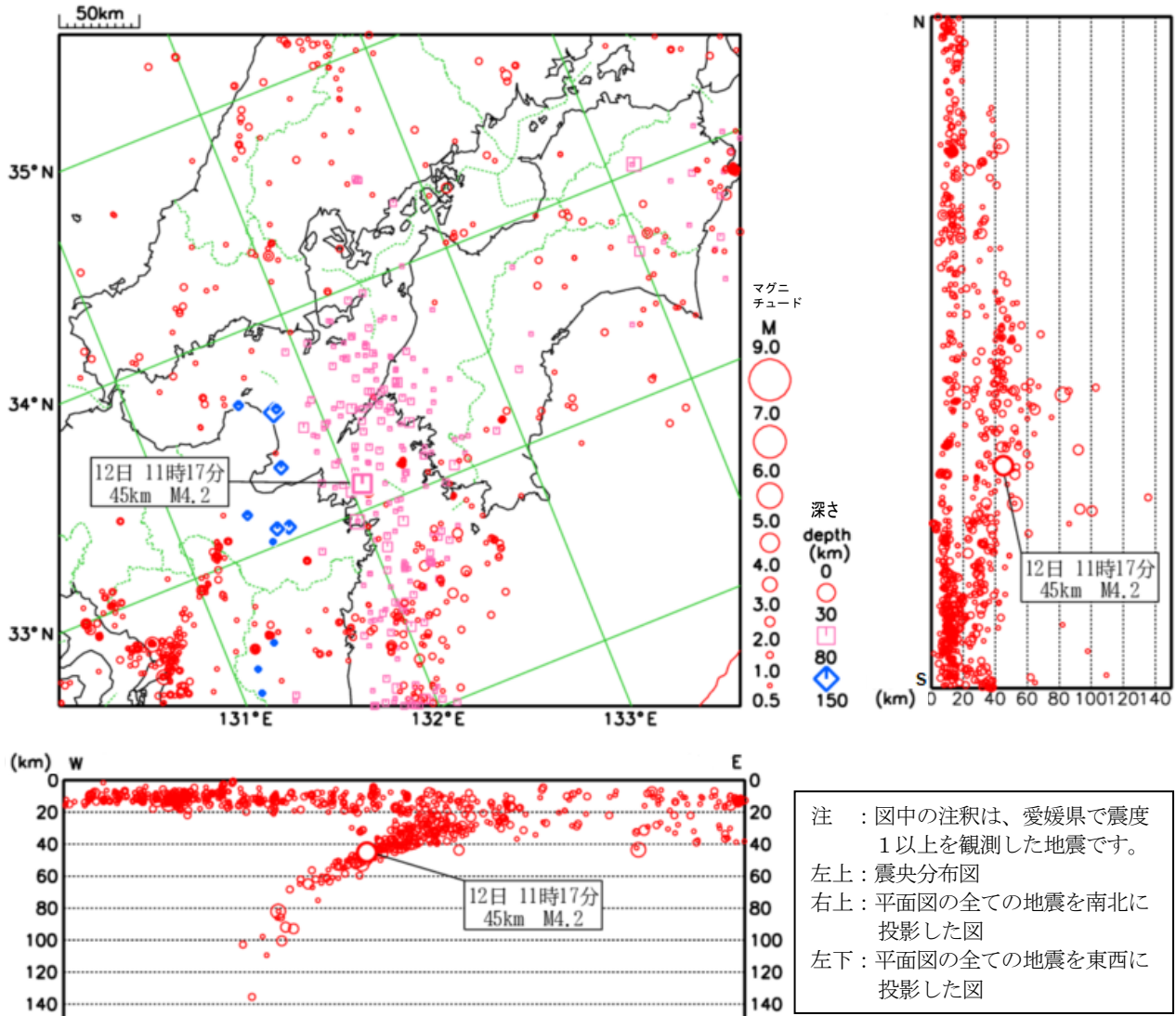
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

# 1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2021年9月1日～9月30日]



震央分布図は地震が発生した場所を地図上でプロットしたものです。地震は地下で発生しますのでシンボルマークの形を深さに応じて変えています。○より◇の方が深い場所で発生した地震です。また、シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を表現しています。

## 2. 地震概況（9月）

上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうち M2.0 以上の地震の回数は 44 回（先月は 46 回）、愛媛県内で震度 1 以上を観測した地震は 1 回（先月は 3 回）でした。

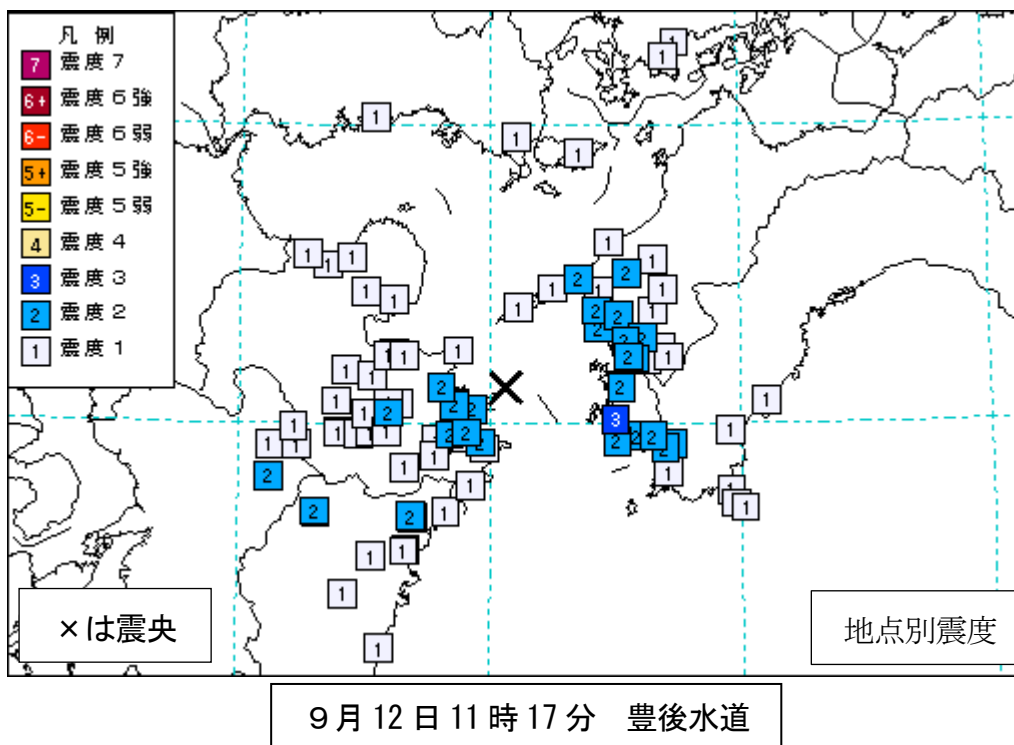
12 日 11 時 17 分 豊後水道の地震（深さ 45km、M4.2）により、愛媛県愛南町で震度 3 を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度 2～1 を観測しました。

### 3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（9月）

震源時（日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
2021年09月12日11時17分	豊後水道	33° 07.3' N	132° 04.0' E	45km	M4.2	最大震度3
愛媛県内各地の震度						
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 3	愛南町柏*				
	震度 2	宇和島市住吉町, 宇和島市丸穂*, 宇和島市津島町*, 宇和島市吉田町* 宇和島市三間町*, 大洲市大洲*, 伊方町湊浦*, 西予市宇和町* 西予市三瓶町*, 西予市明浜町*, 愛南町船越*, 愛南町一本松*, 愛南町城辺*				
	震度 1	八幡浜市五反田*, 大洲市肱川町*, 大洲市長浜*, 内子町内子*, 伊方町三崎* 伊方町三机*, 松野町松丸*, 西予市野村町, 愛南町御荘*, 愛媛鬼北町成川 愛媛鬼北町近永*				

注：\*印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

### 4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図（9月）



## 5. 地震一口メモ

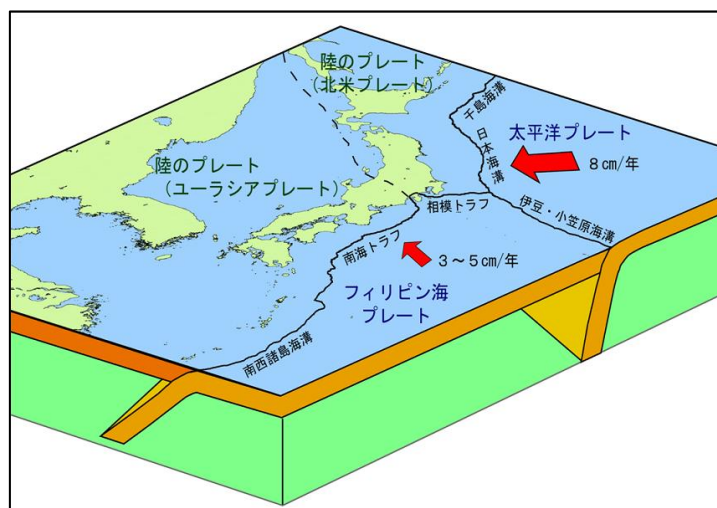
### プレートテクトニクスについて

地球の表面はプレートという十数枚の岩盤に覆われており、このプレートが動くことによって、地震や火山噴火の発生メカニズムを説明する考え方をプレートテクトニクスといいます。

プレートは地球内部で対流しているマントルの上に乗っているため、少しずつ動きます。プレートどうしがぶつかったり、すれ違ったり、片方のプレートがもう一方のプレートの下に沈み込んだりしています。これらのプレート境界で地震や火山活動が活発に行われています。

#### <プレートの分布と地震の起こる場所>

- ・プレートが離れ合う境界では、大西洋中央海嶺などの海底山脈が形成され、近づき合う境界では、プレート同士がぶつかって山脈が形成されています。
- ・全ての地震がプレート境界で発生しているわけではなくて、ハワイや中国内陸部で発生する地震のようにプレート内部で発生するものもあります。
- ・日本列島とその周辺では、複雑なプレートが互いに近づき合っている地域で、海のプレートである太平洋プレート、フィリピン海プレートと、陸のプレートである北米プレート、ユーラシアプレートが分布しています。
- ・海のプレートが沈み込むときに陸のプレートを地下に引きずり込んでいきます。陸のプレートが引きずりに耐えられなくなり、跳ね上げられるように起こるのがプレート境界の地震です。この地震の例としては、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」などがあります。
- ・駿河湾から日向灘沖にかけてのフィリピン海プレートおよびユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域を「南海トラフ」といいます。南海トラフ地震は、概ね100～150年間隔で繰り返し発生しており、前回の南海トラフ地震が発生してから70年以上が経過しているため、次の南海トラフ地震発生の切迫度が高まっています。



(出典：気象庁)

地震発生のしくみの詳細は、気象庁ホームページをご覧ください。URLは以下のとおりです。  
[https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/jishin/about\\_eq.html](https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/jishin/about_eq.html)

南海トラフ地震については、気象庁ホームページをご覧ください。URLは以下のとおりです。  
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/index.html>